

スピントロニクス材料研究の 新潮流

～二次元系を中心に～

日時：H30年 9月19日(水) 13:30～

原子の二次元的結合構造、あるいは、それと等価な二次元的電子状態を表面・界面などに有する機能性を持った薄膜材料が近年活発に研究されています。これらの材料は、従来のバルクや単なる薄膜とは異なる特性・構造を持ち、革新デバイスの開発につながることを期待されています。本シンポジウムでは、同分野の第一線で活躍する研究者を招き、スピントロニクスにおけるこれら二次元材料の研究現状や将来展望について講演いただきます。多くの皆様のご来場をお待ちしております。

【プログラム (一部予定)】

井手上敏也、岩佐義宏 (東大) : 二次元遷移金属ダイカルコゲナイドにおける
スピン・バレー輸送

守谷頼 (東大) : 遷移金属ダイカルコゲナイド強磁性体の物性とヘテロ構造作製

三輪真嗣 (東大) : 分子/金属界面におけるスピン変換

葛西伸哉 (NIMS) : CuInGaSeトンネルバリアとTMR

大島諒、白石誠司 (京大) : 酸化物ヘテロ構造を用いた室温スピン輸送

河野浩 (名大) : Rashba効果の話題から

企画：応用物理学会スピントロニクス研究会 <https://annex.jsap.or.jp/spintro/>

世話人：宗片比呂夫 (東工大)、三谷誠司 (NIMS)、齋藤秀和 (産総研)

森山貴広 (京大)、野崎隆行 (産総研)